



第63期(平成23年3月期) 第2四半期決算説明会資料

2010年10月29日



東洋水産株式会社

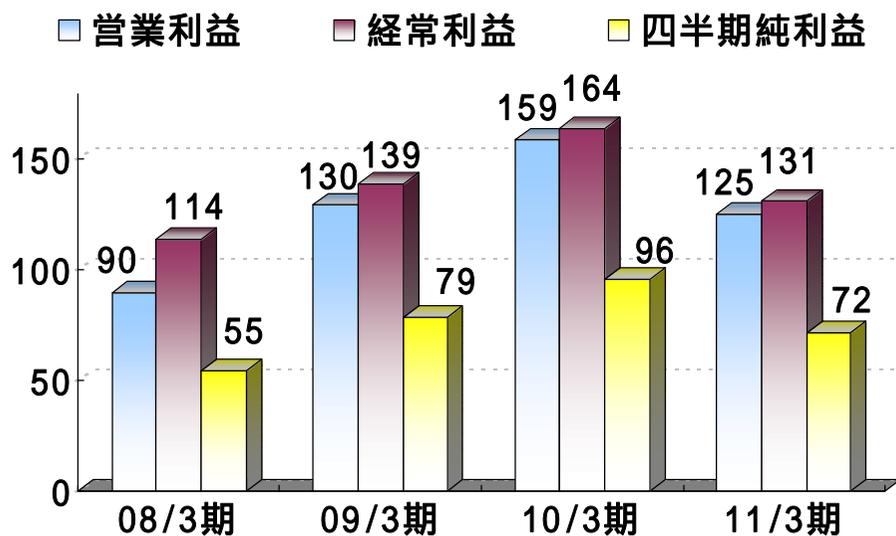
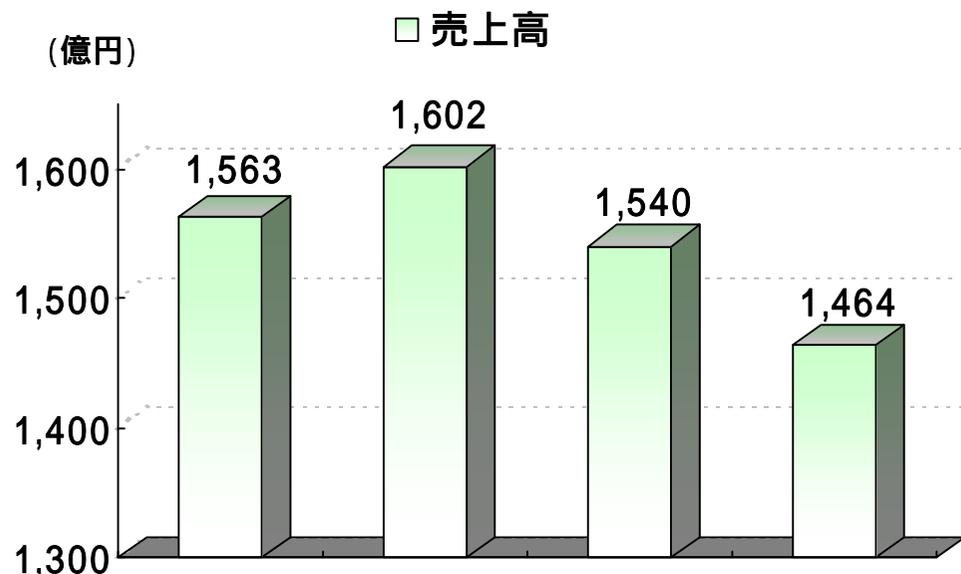


目次

	(頁)		(頁)
第2四半期(累計)連結業績	3	通期見通し	
上半期概況		国内即席麺事業	14
国内即席麺事業	6	低温食品事業	14
低温食品事業	8	加工食品事業	17
加工食品事業	10	水産食品・冷蔵庫事業	17
水産食品・冷蔵庫事業	11	海外即席麺事業	18
海外即席麺事業	12	連結通期予想	19



第2四半期(累計)連結業績



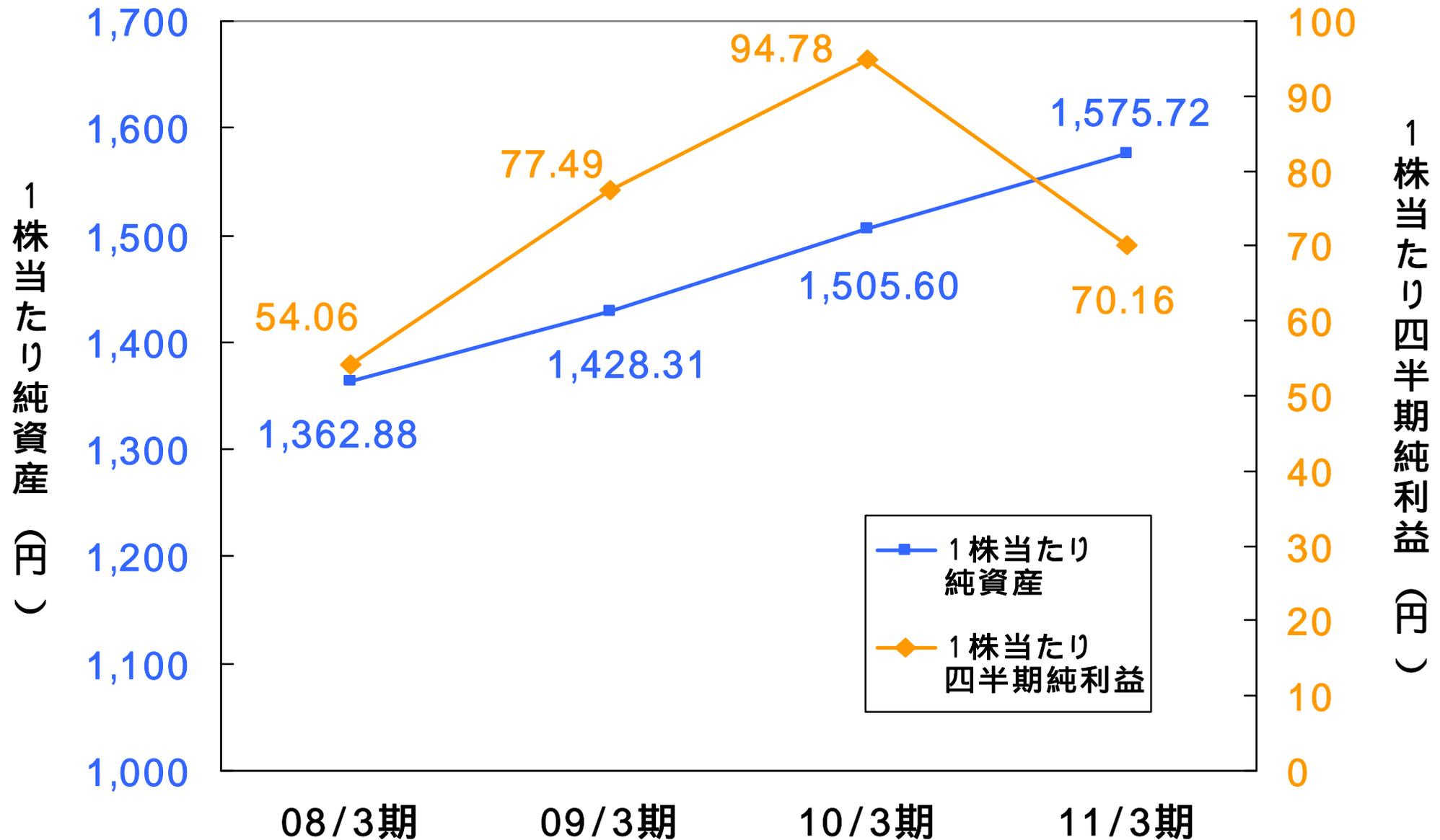
(億円)

	10/3期	11/3期	増減	
水産食品事業	173	160	-14	-7.9%
海外即席麺事業	277	239	-38	-13.7%
国内即席麺事業	423	430	+7	+1.6%
低温食品事業	342	336	-6	-1.7%
加工食品事業	102	92	-11	-10.6%
冷蔵事業	66	65	-1	-1.2%
その他	157	142	-14	-9.2%
売上高合計	1,540	1,464	-77	-5.0%

水産食品事業	3	3	+0	+14.3%
海外即席麺事業	58	42	-16	-27.1%
国内即席麺事業	54	40	-14	-25.7%
低温食品事業	26	25	-1	-2.6%
加工食品事業	3	3	-0	-9.6%
冷蔵事業	7	4	-3	-51.1%
その他	7	7	-0	-4.0%
営業利益合計	159	125	-34	-21.6%



第2四半期(累計)連結業績・・・経営指標の推移





上半期概況



上半期実績 国内即席麺事業

即席麺市場の状況

- ・ 7月後半から猛暑、残暑の影響
- ・ カップ麺の価格低下により、袋麺からカップ麺に消費がシフト

新ブランド「四季物語」投入

- ・ 四季をデザインと具材で表現
- ・ うどん、ラーメン、焼そばを発売
- ・ 上半期の実績押し上げの原動力



カップ麺の販売施策

- ・ 「赤いきつね」「緑のたぬき」のだし素材をリニューアル
- ・ 「緑のたぬき」30周年キャンペーン実施
- ・ 大盛タイプ「ごつ盛り」に新製品投入



袋麺の販売施策

- ・ 主力ノンフライ中華麺のアイテム追加
- ・ 地域限定袋麺のリニューアル



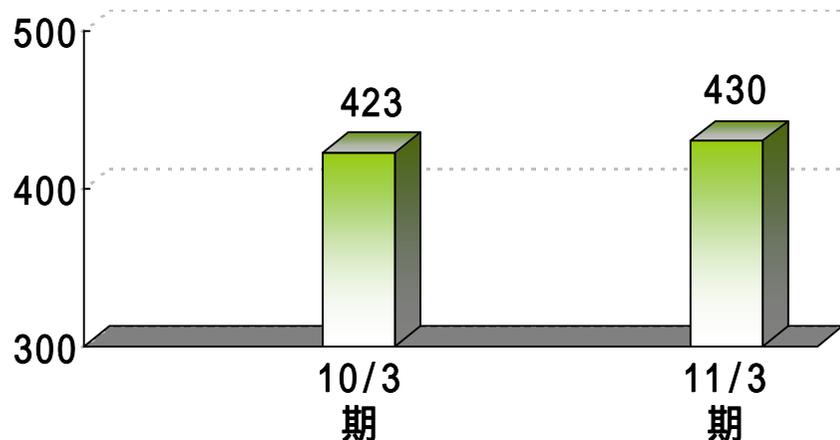


上半期実績 国内即席麺事業

売上高
(億円)

国内即席麺事業

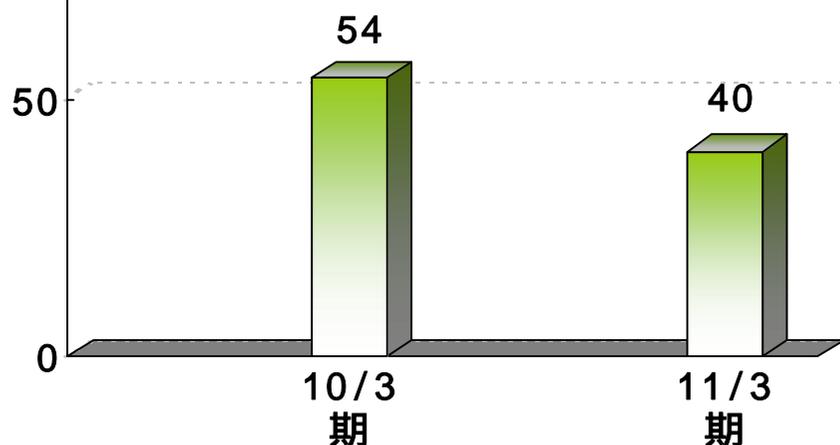
(単位:億円)



	10/3期	11/3期	増減	
売上高	423	430	+7	+1.6%
営業利益	54	40	-14	-25.7%

営業利益

(億円)



要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 2
原材料費減少	+ 1
製造経費増加	- 8
販管費増加	- 9
合計	- 14



上半期実績 低温食品事業

生 麵

生麵市場は前年を下回る状況が継続

- ・ P B や低価格商品の単価下落
- ・ 激しい気候の変化による消費マインド低下

当社の状況も厳しい

- ・ 消費者キャンペーン実施
- ・ 「つけ麺」類の充実で需要喚起
- ・ 主力商品「焼そば類」厳しい



冷凍食品

- ・ ライスバーガー、冷凍野菜の新製品が売上に貢献
- ・ 外食低迷の影響で業務用冷凍うどん・そばが厳しい



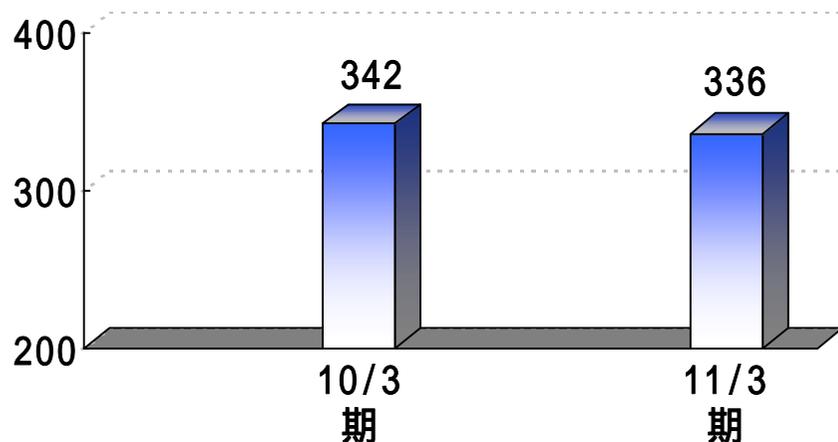


上半期実績 低温食品事業

低温食品事業

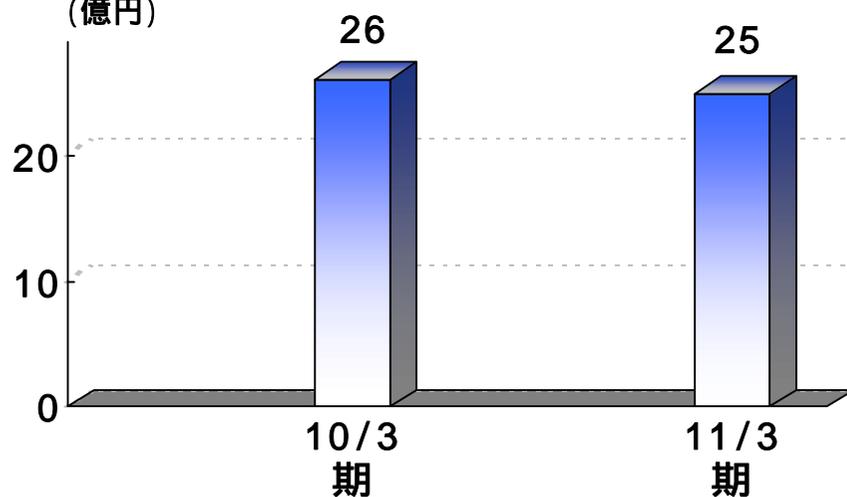
(単位:億円)

売上高
(億円)



営業利益

(億円)



	10/3期	11/3期	増減	
売上高	342	336	-6	-1.7%
営業利益	26	25	-1	-2.6%

要因	影響額
売上高減による利益減少	-2
原材料費減少	+6
製造経費増加	-3
販管費増加	-2
合計	-1



上半期実績 加工食品事業

米飯

- ・ 家庭内炊飯の増加や
消費者の低価格志向により、販売環境厳しい
- ・ 赤飯、釜飯、ドライカレーなど品揃え強化



F D 製品

- ・ 簡便志向の流れでスープ類が堅調に推移
- ・ F D 製法の特性を活かした商品開発
(素材感を活かしたスープ、釜飯の素など)





上半期実績 水産食品・冷蔵庫事業

水産食品事業

- ・ 消費者の生活防衛意識の高まりによる魚離れ
- ・ 鮭鱒、カニ、イカ等の新商品開発、新規顧客獲得

冷蔵庫事業

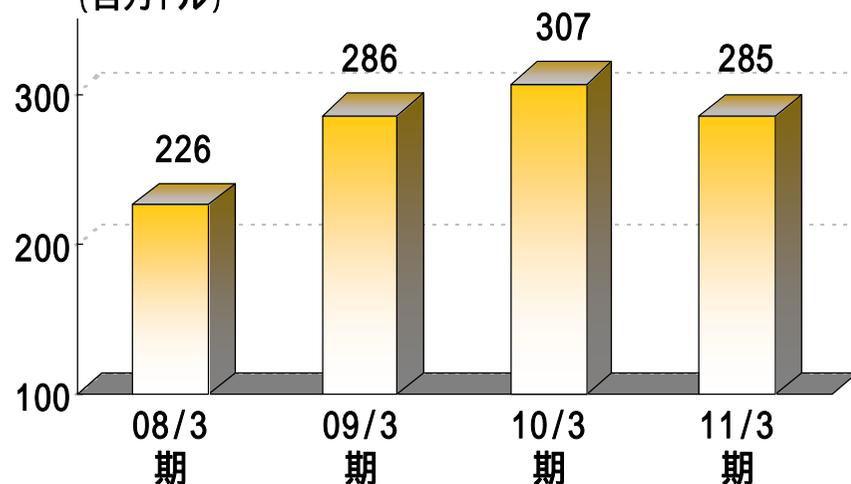
- ・ 荷主の在庫圧縮、猛暑によるアイスクリーム需要増
在庫下落、保管料収入減少



上半期実績 海外即席麺事業

売上高

(百万ドル)



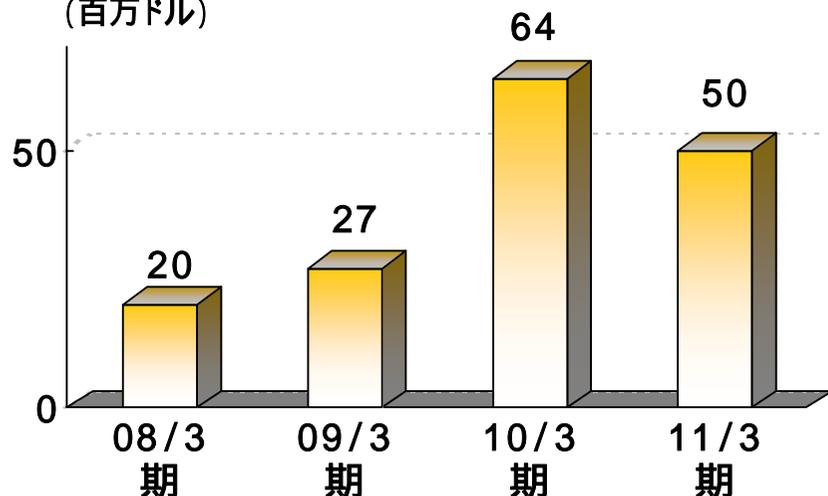
海外即席麺事業

(単位:百万ドル)

	10/3期	11/3期	増減	
売上高	307	285	-22	-7.1%
営業利益	64	50	-14	-21.5%

営業利益

(百万ドル)



要因	影響額
売上高減による利益減少	-13
原材料費減少	+6
製造経費増加	-3
販管費増加	-4
合計	-14



連結通期予想



通期の見通し 日本

国内即席麺事業

- ・「四季物語・冬」「四季物語・春」発売
- ・「緑のたぬき」30周年キャンペーン第2弾実施
- ・ラーメン店とのコラボ商品販売



低温食品事業

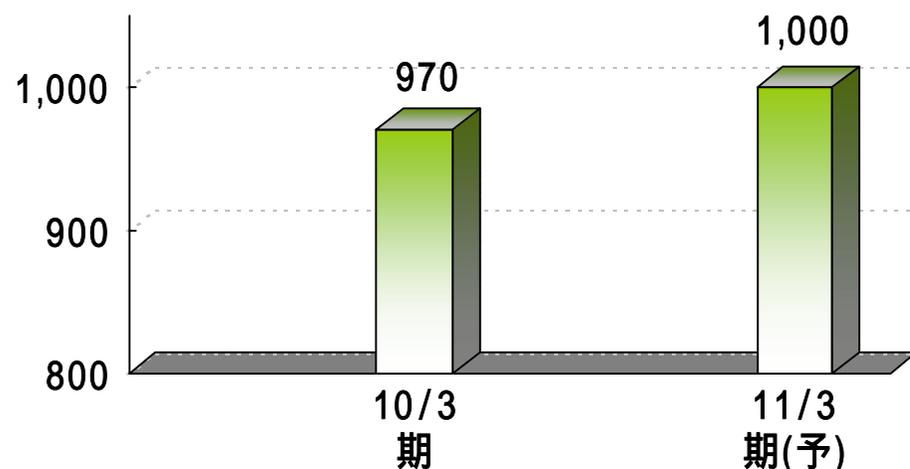
- ・新商品開発、消費者キャンペーンの実施
- ・主力商品リニューアルによるブランド活性化
- ・市場環境の厳しさによる一層の競争激化





通期の見通し 国内即席麺事業

売上高
(億円)



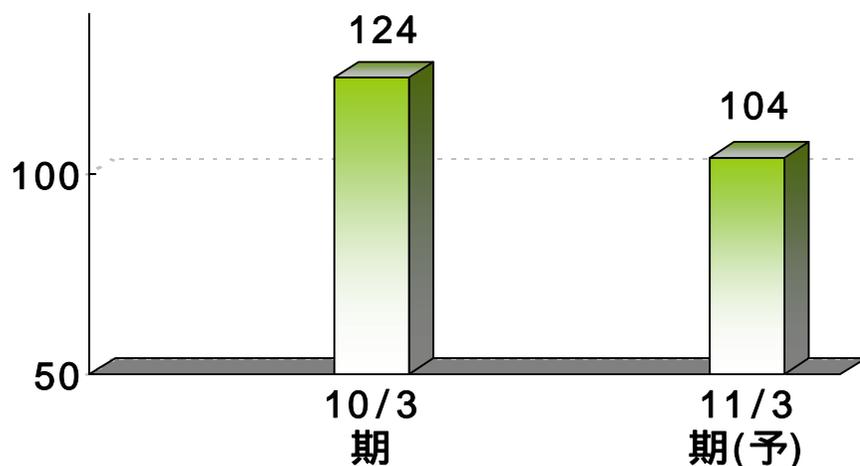
国内即席麺事業

(単位:億円)

	10/3期	11/3期 (予)	増減	
売上高	970	1,000	+30	+3.1%
営業利益	124	104	-20	-15.8%

営業利益

(億円)



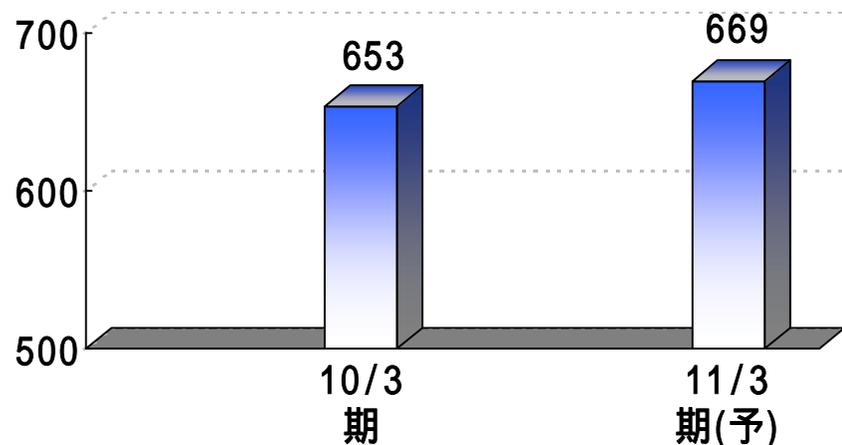
要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 7
原材料費増加	- 4
製造経費増加	- 9
販管費増加	- 14
合計	- 20



通期の見通し 低温食品事業

低温食品事業

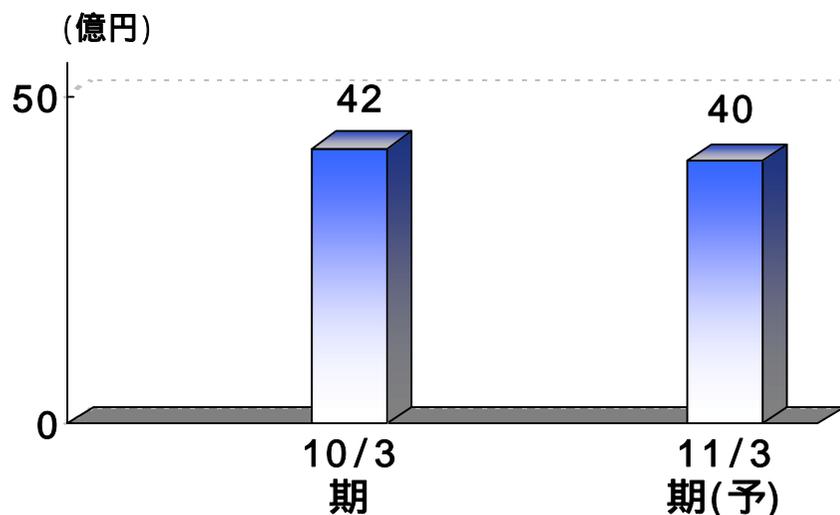
売上高
(億円)



(単位: 億円)

	10/3期	11/3期 (予)	増減	
売上高	653	669	+16	+2.5%
営業利益	42	40	-2	-4.0%

営業利益



要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 4
原材料費減少	+ 6
製造経費増加	- 4
販管費増加	- 8
合計	- 2



通期の見通し 日本

加工食品事業

- ・ コストダウンによる低価格志向への対応
- ・ 積極的な商品開発による幅広い商品展開

水産食品事業

- ・ 年末商材の積極的な拡売、新製品開発

冷蔵庫事業

- ・ 営業活動強化による新規顧客獲得

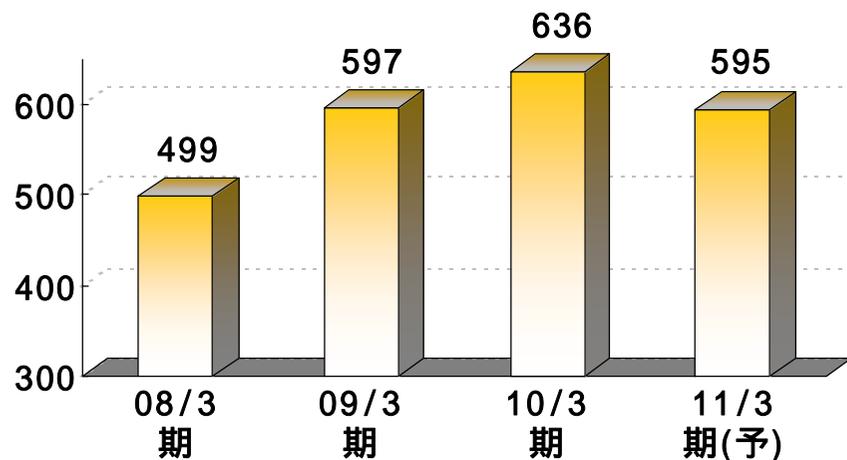


通期の見通し 海外即席麺事業

売上高
(百万ドル)

海外即席麺事業

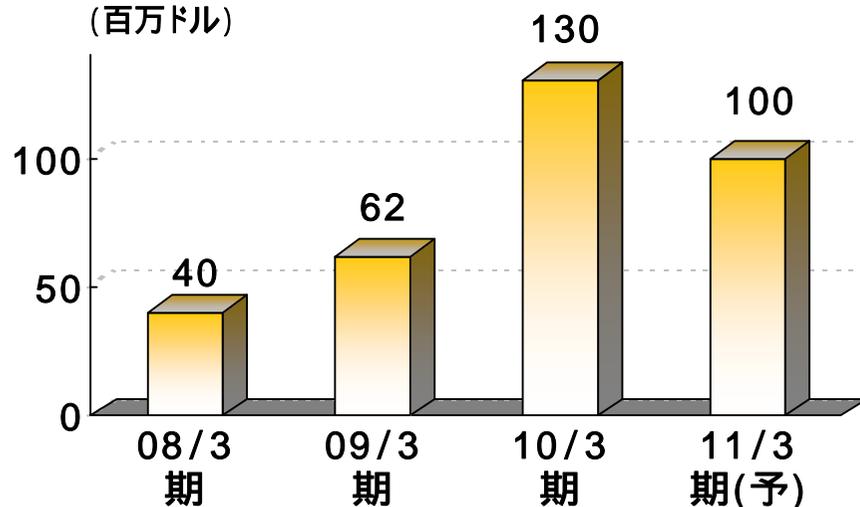
(単位:百万ドル)



	10/3期	11/3期(予)	増減	
売上高	636	595	-41	-6.5%
営業利益	130	100	-30	-23.3%

営業利益

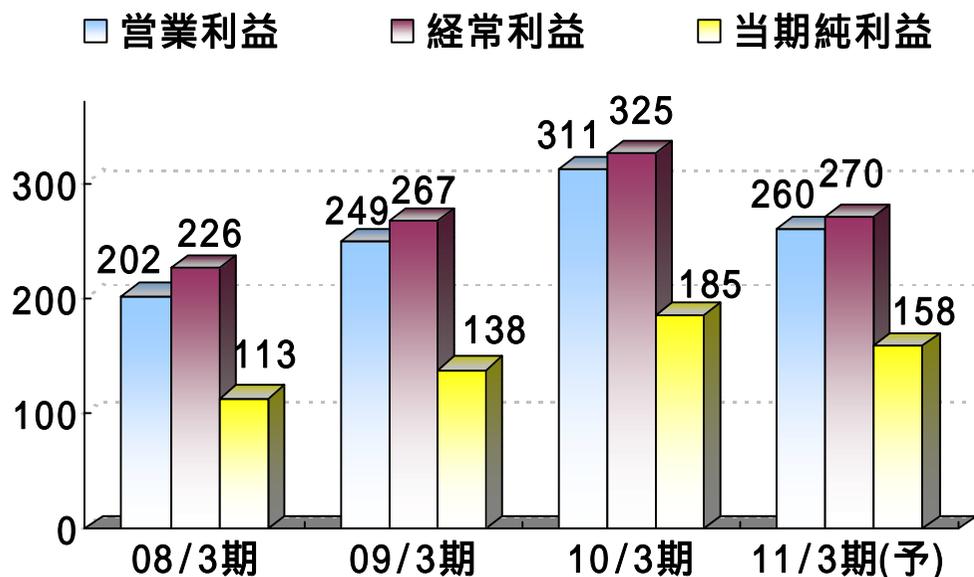
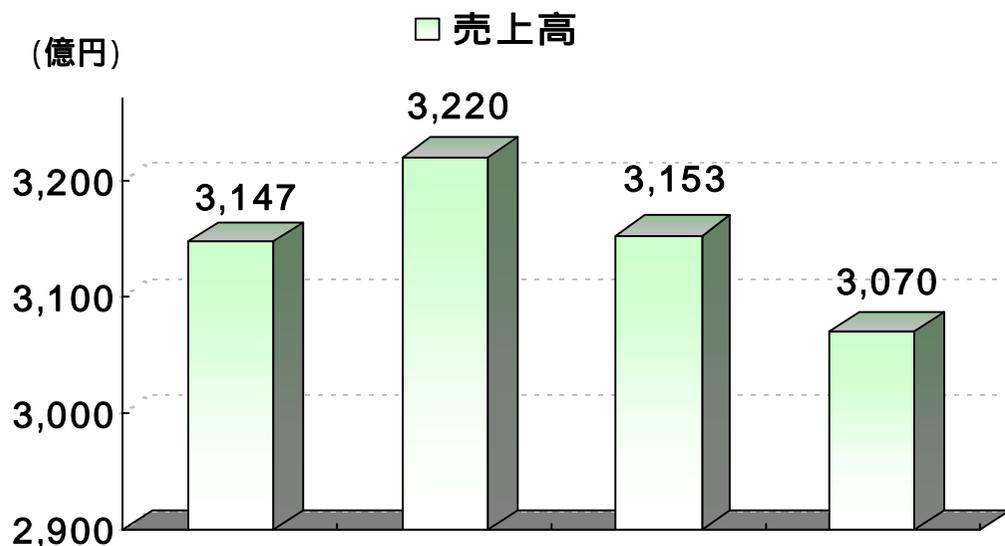
(百万ドル)



- ・ 通期予想は弱含み
- ・ 下期は不透明感が強い



連結通期予想



(億円)

	10/3期	11/3期(予)	増減	
水産食品事業	334	330	-4	-1.1%
海外即席麺事業	592	476	-116	-19.6%
国内即席麺事業	970	1,000	+30	+3.1%
低温食品事業	653	669	+16	+2.5%
加工食品事業	193	193	+0	+0.2%
冷蔵事業	130	130	+0	+0.4%
その他	281	276	-5	-1.8%
売上高合計	3,153	3,070	-83	-2.6%

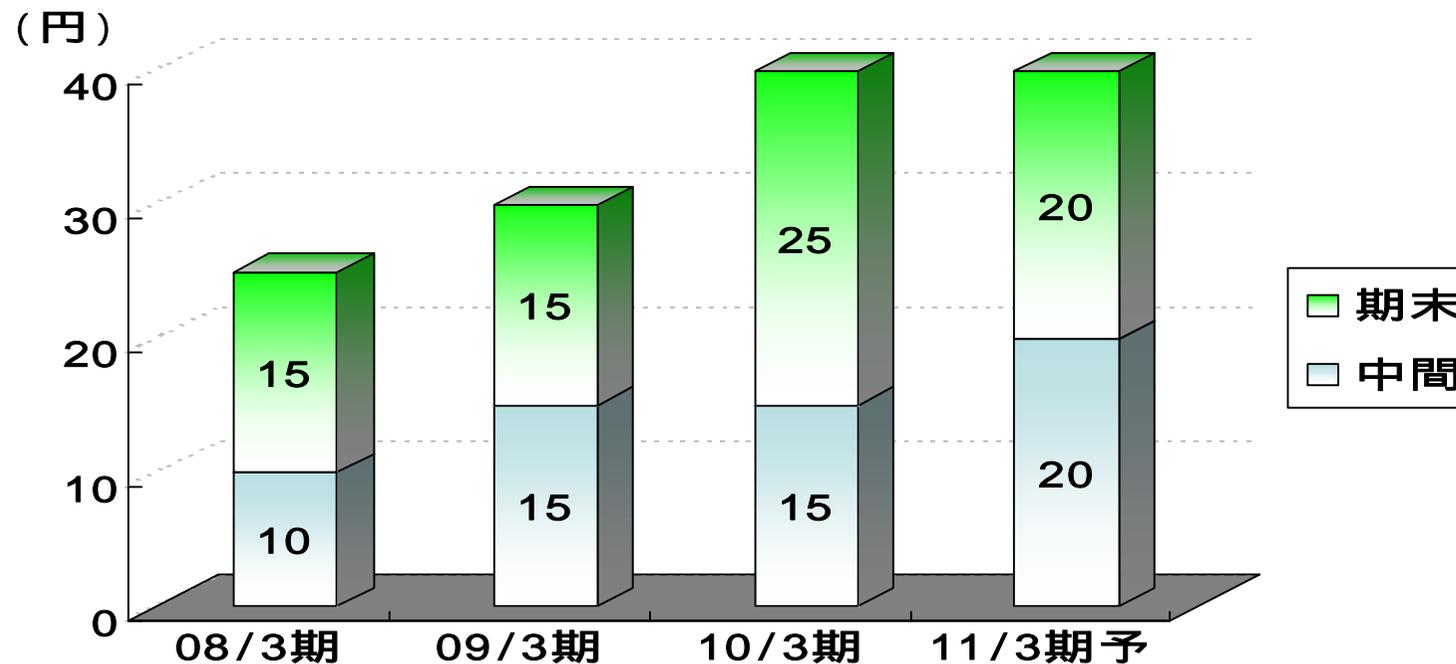
水産食品事業	4	7	+3	+79.7%
海外即席麺事業	121	80	-41	-34.0%
国内即席麺事業	124	104	-20	-15.8%
低温食品事業	42	40	-2	-4.0%
加工食品事業	6	7	+1	+9.9%
冷蔵事業	9	8	-1	-9.3%
その他	5	7	+2	-
営業利益合計	311	260	-51	-16.5%



連結通期予想 …… 配当

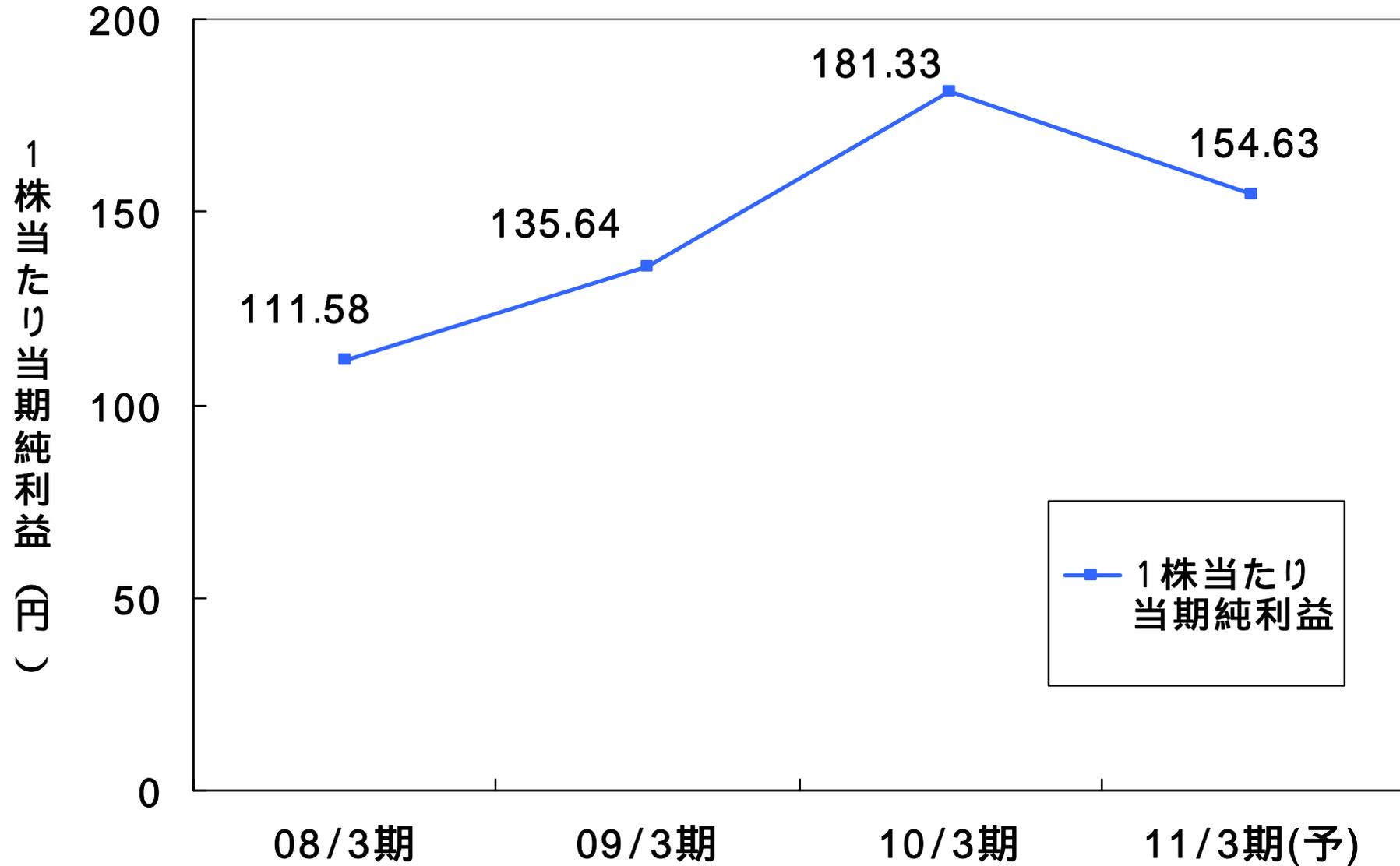
配当方針

- ・ 期間業績を加味しながら安定配当を実施
- ・ 長期にわたり安定した配当を継続することを目指す





連結通期予想・・・1株利益



Smiles for All.

すべては、笑顔のために。

この説明会資料に掲載されている、東洋水産株式会社の計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に対しての見通しであり、現時点で入手できる 情報から得られた東洋水産株式会社の経営者の判断に基づいております。

なお、今回掲載している前期のセグメント別の金額は非監査のため、参考情報となります。

実際の業績については様々な要因により、見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。



東洋水産株式会社